



つ 土 第 45 号
平成19年5月 7日

国土交通省道路局長 殿

つがる市長 福島 弘



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について

標記について、別紙のとおり回答します。

今後の道路政策や道路の整備・管理について

重点化を進める上で特に優先度の高い政策

1. 地域活性化や物流のための道路整備。特に企業誘致にあっては、最も有効なセールスポイントとなる。
2. 豪雪地帯にあっては、冬に強い道路の整備。歩道を広く取る雪国タイプが望まれる。
3. 消流雪溝の普及。
4. 開かずの踏切対策やバイパスの整備等、渋滞対策

効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

1. 透明性のある入札の実施。
2. コストの縮減。
3. 事業採択前の十分な審査。(必要性、住民の理解)

その他、道路政策や道路の整備・管理全般について

1. 地方における高速道路の建設は費用対効果を考えると無駄との批判もあるが、高規格幹線道路「津軽自動車道」五所川原～鱒ヶ沢間は地域経済の活性化や生活の利便性の向上を図る観点から重要な路線であり、更に第3次医療施設への高速アクセスの確保や災害時における物資の輸送及び救急患者の救命活動に対応する被災代替ルートとしての機能を持つなど、早急な整備が望まれます。
2. 県道鱒ヶ沢蟹田線の牛瀉町の区間はセンターラインも引けない狭隘した箇所が続いており、夏場でも大型車同士の交差は、ままならない状況にあります。又、同路線は牛瀉小学校の通学路にもなっているが、歩道もなく冬期間は特に危険な状況にある。更に昨年度、Xバンドレーダーの配備に伴い交通量も増大している。
牛瀉地区は県道沿いに住宅が密集しており拡幅整備は無理と思われることから木造平滝～車力町間に「牛瀉バイパス」を要望します。
 $L=4, 800\text{m}$ $w=9.0\text{m}$
3. 国道101号線の「ジャスコ」前には歩行者の安全を考え、300mの歩道が必要である。
4. 有料の高規格道路は、とかく採算性が議論となるので、交通量の少ない地方においては無料のバイパス的な道路整備も必要と考える。